



## 平成27年国勢調査 従業地・通学地による 人口・就業状態等集計結果（香川県分）

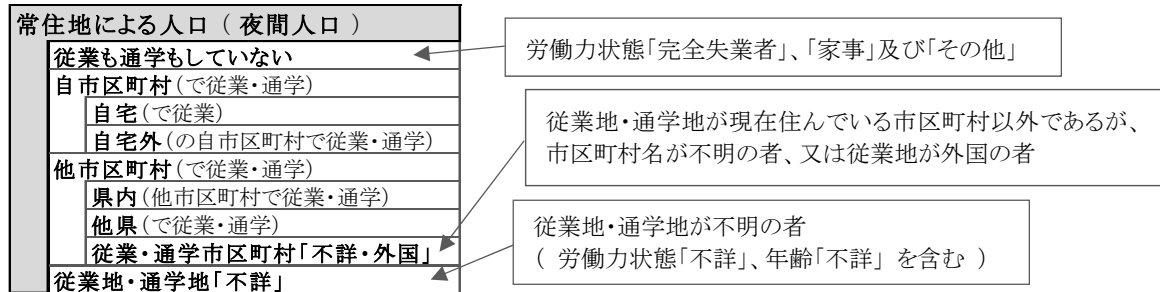
◇ 本報告は、平成27年国勢調査（同年10月1日現在で実施）について、平成29年6月28日に総務省統計局から公表された「従業地・通学地による人口・就業状態等集計」の香川県分の結果を基に、その概要をまとめたものです。

## ≪用語の解説≫

### ① 常住地による人口（夜間人口）

調査時（平成 27 年 10 月 1 日現在）に調査の地域に常住している人口。

いわゆる、国勢調査の人口。【香川県：976,263 人（平成 27 年 10 月 1 日現在）】



### ② 従業地・通学地による人口（昼間人口）

就業者又は通学者が従業・通学している場所（従業地・通学地）による人口であり、次式により算出される。

[ A市の昼間人口＝A市の夜間人口－A市からの流出人口＋A市への流入人口 ]

### ③ 昼夜間人口比率

夜間人口 100 人当たりの昼間人口の比率。つまり、100 を超えるときは（通勤・通学人口の）流入超過、100 を下回るときは流出超過を示している。

[ 昼夜間人口比率＝昼間人口／夜間人口×100 ]

### ④ 流入人口と流出人口

A市の「流入人口」とは、A市外に常住しA市に通勤・通学している人口をいい、A市の「流出人口」とは、A市に常住しA市外へ通勤・通学している人口をいう。

## ※数値の見方

- 本文及び図表の数値は、その表章単位に合わせて四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しない。
- 割合は、特に注記のない限り、分母から「不詳」の数を除いて算出している。なお、常住地による人口における『県内』『他県』の割合の計算は次のとおり。

$$\text{『県内』(『他県』)の割合} = \frac{\text{『県内』(『他県』)}}{\text{『他市区町村』}-\text{『従業・通学市区町村「不詳・外国」』}} \times \text{『他市区町村』の割合}$$

# 1 常住地による従業地・通学地別人口

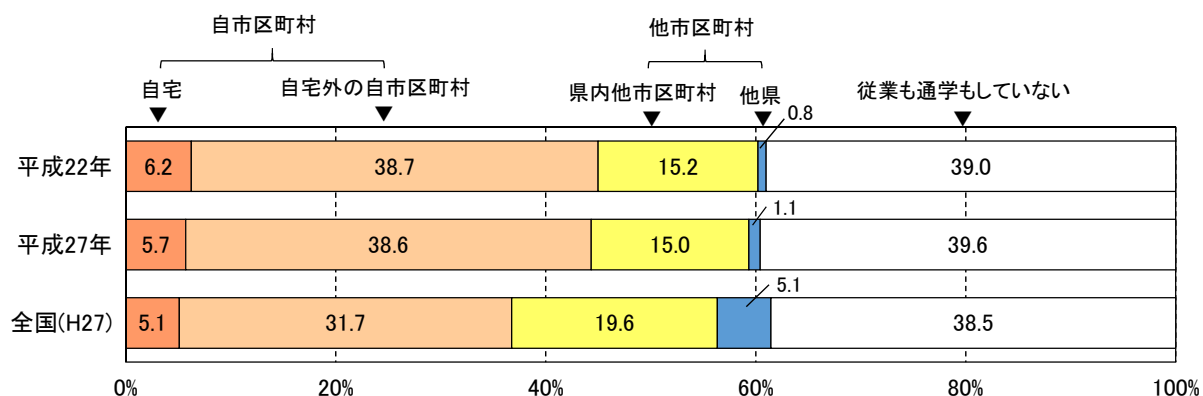
全国平均と比べ、自市区町村内で従業・通学する者の割合が7.5ポイント高い

- 平成27年10月1日現在の香川県の人口(976,263人)のうち、従業地・通学地別の割合をみると、「自市区町村」が44.3%(406,481人)、「他市区町村」が16.1%(147,609人)、「従業も通学もしていない」が39.6%(362,761人)と、常住している自市区町村内で従業・通学している者の割合が一番高かった。
- 平成22年の割合と比べると、「自市区町村」が0.7ポイントの低下、「他市区町村」が0.1ポイントの上昇、「従業も通学もしていない」が0.6ポイントの上昇となっており、従業も通学もしていない者の割合が最も上昇している。
- 全国平均は、「自市区町村」が36.8%、「他市区町村」が24.7%、「従業も通学もしていない」が38.5%と、従業も通学もしていない者の割合が最も高くなっており、全国平均と比べると、香川県は自市区町村内で従業・通学している者の割合が7.5ポイント高かった。〔表1、図1〕

表1 常住地による従業地・通学地別人口及び割合(平成22年～平成27年)

従業地・通学地	実数(人)		割合(%)		増減率(%)	ポイント差
	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年	H22-H27	H22-H27
常住地による人口(夜間人口)	995,842	976,263	100.0	100.0	-2.0	0.0
従業も通学もしていない	372,467	362,761	39.0	39.6	-2.6	0.6
自市区町村	429,654	406,481	45.0	44.3	-5.4	-0.7
自宅で従業	59,646	52,478	6.2	5.7	-12.0	-0.5
自宅外	370,008	354,003	38.7	38.6	-4.3	-0.1
他市区町村	152,940	147,609	16.0	16.1	-3.5	0.1
県内	138,464	136,499	15.2	15.0	-1.4	-0.2
他県	7,043	9,915	0.8	1.1	40.8	0.3
従業地・通学地「不詳」	40,781	59,412	—	—	—	—
うち就業者	462,419	452,645	100.0	100.0	-2.1	0.0
自市区町村	327,100	313,427	70.8	70.6	-4.2	-0.2
自宅で従業	59,646	52,478	12.9	11.8	-12.0	-1.1
自宅外	267,454	260,949	57.9	58.8	-2.4	0.9
他市区町村	135,177	130,586	29.2	29.4	-3.4	0.2
県内	123,277	122,374	28.0	27.8	-0.7	-0.2
他県	5,695	7,167	1.3	1.6	25.8	0.3
従業地「不詳」	142	8,632	—	—	—	—
うち通学者	120,343	114,075	100.0	100.0	-5.2	0.0
自市区町村(自宅外)	102,554	93,054	85.2	84.5	-9.3	-0.7
他市区町村	17,763	17,023	14.8	15.5	-4.2	0.7
県内	15,187	14,125	13.6	12.9	-7.0	-0.6
他県	1,348	2,748	1.2	2.5	103.9	1.3
通学地「不詳」	26	3,998	—	—	—	—

図1 常住地による従業地・通学地別割合(香川県:平成22年・平成27年、全国:平成27年)



## 2 常住地による従業地別 15 歳以上就業者

### (1) 男女、年齢（5 歳階級）別就業者

他市区町村への通勤者の割合は、男性 32.6%、女性 25.5%

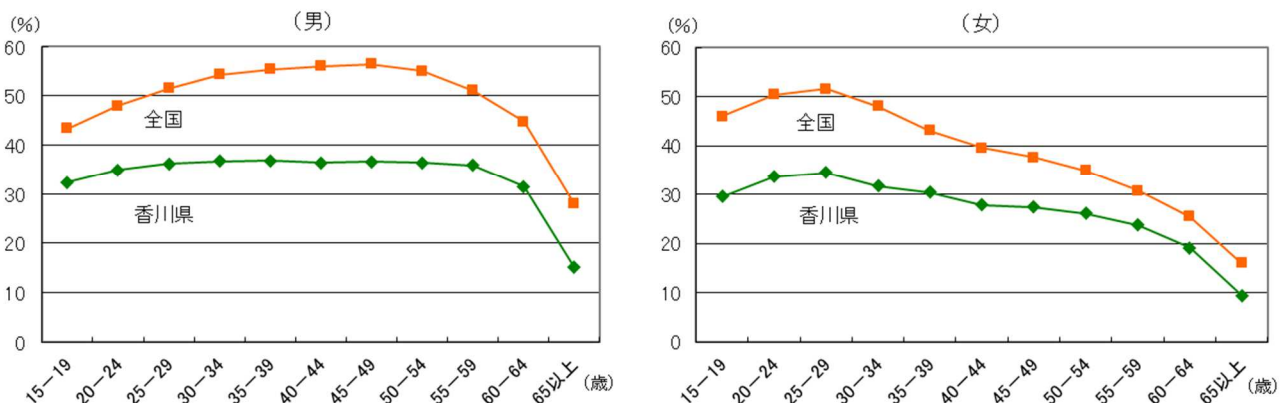
- 常住地による 15 歳以上就業者のうち、「他市区町村」の割合は 29.4%で、男女別にみると、男性が 32.6%、女性が 25.5%となっている。
- 「他市区町村」の割合を年齢（5 歳階級）別にみると、男性は 25～54 歳で 36%台となっており、35～39 歳が 36.8%と最も高くなっている。女性は 20～39 歳で 30%台となっており、25～29 歳が 34.5%と最も高くなっている。
- 「他市区町村」の割合を全国平均と比べると、香川県は全ての年齢階級で低くなっている。

[表 2、図 2]

表2 常住地による 男女、年齢(5歳階級)、従業地別 15歳以上就業者の割合(平成27年 香川県・全国) (%)

	香 川 県							全 国						
	総数 (就業者)	自市区町村			他市区町村			総数 (就業者)	自市区町村			他市区町村		
		自宅	自宅外	県内	他県	自宅	自宅外		県内	他県				
総数	100.0	70.6	11.8	58.8	29.4	27.8	1.6	100.0	56.0	10.4	45.6	44.0	35.0	9.0
15-19歳	100.0	68.9	1.9	66.9	31.1	29.0	2.1	100.0	55.3	1.4	53.9	44.7	36.1	8.6
20-24歳	100.0	65.7	1.8	63.9	34.3	32.5	1.8	100.0	50.8	1.8	49.0	49.2	38.9	10.3
25-29歳	100.0	64.6	2.5	62.1	35.4	34.1	1.3	100.0	48.4	2.7	45.7	51.6	41.5	10.0
30-34歳	100.0	65.5	4.1	61.4	34.5	33.1	1.4	100.0	48.4	4.1	44.3	51.6	41.5	10.1
35-39歳	100.0	66.0	5.0	61.0	34.0	32.5	1.5	100.0	49.9	5.1	44.7	50.1	40.1	10.0
40-44歳	100.0	67.5	5.7	61.8	32.5	30.7	1.8	100.0	51.3	5.8	45.5	48.7	38.8	10.0
45-49歳	100.0	67.7	6.7	61.0	32.3	30.0	2.3	100.0	52.1	6.7	45.5	47.9	37.6	10.3
50-54歳	100.0	68.4	7.9	60.5	31.6	29.5	2.1	100.0	54.1	7.9	46.1	45.9	36.1	9.8
55-59歳	100.0	69.6	10.2	59.4	30.4	28.4	2.0	100.0	57.8	10.3	47.5	42.2	33.5	8.7
60-64歳	100.0	73.7	16.8	56.9	26.3	24.8	1.4	100.0	63.2	15.7	47.5	36.8	29.5	7.4
65歳以上	100.0	87.3	40.9	46.4	12.7	12.0	0.7	100.0	76.8	35.0	41.8	23.2	18.6	4.6
男	100.0	67.4	12.1	55.3	32.6	30.2	2.4	100.0	50.5	10.4	40.1	49.5	38.1	11.4
15-19歳	100.0	67.7	2.4	65.3	32.3	30.5	1.8	100.0	56.6	1.8	54.8	43.4	35.4	8.0
20-24歳	100.0	65.1	2.3	62.9	34.9	33.0	1.9	100.0	52.0	2.2	49.8	48.0	37.9	10.0
25-29歳	100.0	63.8	2.7	61.2	36.2	34.5	1.6	100.0	48.5	3.0	45.5	51.5	41.4	10.1
30-34歳	100.0	63.3	4.1	59.1	36.7	34.8	1.9	100.0	45.7	4.1	41.6	54.3	43.2	11.1
35-39歳	100.0	63.2	5.2	57.9	36.8	34.6	2.2	100.0	44.6	5.0	39.5	55.4	43.2	12.2
40-44歳	100.0	63.6	6.2	57.4	36.4	33.5	2.9	100.0	44.0	5.9	38.1	56.0	42.9	13.1
45-49歳	100.0	63.4	7.1	56.3	36.6	32.8	3.8	100.0	43.6	6.9	36.6	56.4	42.1	14.3
50-54歳	100.0	63.6	8.1	55.5	36.4	32.9	3.5	100.0	45.0	8.1	36.9	55.0	40.9	14.1
55-59歳	100.0	64.2	10.0	54.2	35.8	32.5	3.3	100.0	48.9	10.0	38.9	51.1	38.6	12.6
60-64歳	100.0	68.6	16.1	52.5	31.4	29.2	2.2	100.0	55.3	14.8	40.5	44.7	34.4	10.4
65歳以上	100.0	85.0	40.0	44.9	15.0	14.1	1.0	100.0	72.1	32.8	39.2	27.9	21.7	6.3
女	100.0	74.5	11.4	63.1	25.5	24.8	0.7	100.0	63.0	10.3	52.6	37.0	31.1	5.9
15-19歳	100.0	70.4	1.3	69.1	29.6	27.1	2.5	100.0	54.0	1.1	52.9	46.0	36.8	9.2
20-24歳	100.0	66.3	1.4	64.9	33.7	32.0	1.7	100.0	49.5	1.3	48.2	50.5	39.8	10.7
25-29歳	100.0	65.5	2.4	63.1	34.5	33.5	0.9	100.0	48.4	2.4	45.9	51.6	41.6	10.0
30-34歳	100.0	68.3	4.0	64.3	31.7	30.9	0.8	100.0	51.9	4.2	47.7	48.1	39.2	8.9
35-39歳	100.0	69.5	4.6	64.9	30.5	29.8	0.7	100.0	56.9	5.3	51.6	43.1	36.0	7.2
40-44歳	100.0	72.2	5.1	67.0	27.8	27.3	0.6	100.0	60.4	5.7	54.7	39.6	33.5	6.0
45-49歳	100.0	72.5	6.2	66.4	27.5	26.8	0.7	100.0	62.4	6.3	56.1	37.6	32.2	5.4
50-54歳	100.0	73.9	7.6	66.3	26.1	25.7	0.4	100.0	65.0	7.8	57.3	35.0	30.3	4.7
55-59歳	100.0	76.3	10.4	65.9	23.7	23.2	0.5	100.0	69.3	10.7	58.6	30.7	26.9	3.8
60-64歳	100.0	80.8	17.8	63.1	19.2	18.8	0.4	100.0	74.6	16.9	57.6	25.4	22.4	3.0
65歳以上	100.0	90.5	42.1	48.5	9.5	9.2	0.3	100.0	84.0	38.3	45.7	16.0	14.0	2.1

図2 年齢(5歳階級)別、従業地が「他市区町村」の15歳以上就業者の割合(平成27年 香川県・全国)



## (2) 産業（大分類）別就業者

全国平均と比べ、第2次・第3次産業就業者が自市区町村内で従業する割合が10ポイント以上高い

- 常住地による15歳以上の就業者のうち、従業地別割合を産業別にみると、第1次産業では「自宅」の割合が75.2%と高く、「農業、林業」では76.4%を占めている。
- 第2次産業では「自市区町村」の割合が64.3%と高いが、「製造業」では「他市区町村」の割合が39.3%と他の産業に比べて比較的高くなっている。
- 第3次産業でも「自市区町村」の割合が70.8%と高いが、そのうち、「運輸業、郵便業」は「他市区町村」の割合が42.2%と、他の産業に比べて最も高くなっている。

〔表3〕

表3 常住地による産業（大分類）、従業地別15歳以上就業者の割合（平成27年 香川県・全国） (%)

	総数 (就業者)	自市区町村		他市区町村			
		自宅	自宅外		県内	他県	
<b>〔香川県〕</b>							
総数	100.0	70.6	11.8	58.8	29.4	27.8	1.6
A 農業、林業	100.0	94.9	76.4	18.6	5.1	4.9	0.1
B 漁業	100.0	97.0	61.7	35.3	3.0	2.5	0.4
C 鉱業、採石業、砂利採取業	100.0	80.1	12.8	67.3	19.9	18.0	1.9
D 建設業	100.0	72.3	14.9	57.4	27.7	25.4	2.3
E 製造業	100.0	60.7	5.9	54.8	39.3	37.3	2.1
F 電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	68.6	0.4	68.2	31.4	28.5	3.0
G 情報通信業	100.0	72.3	6.9	65.3	27.7	23.7	4.1
H 運輸業、郵便業	100.0	57.8	2.7	55.1	42.2	38.6	3.6
I 卸売業、小売業	100.0	72.9	10.4	62.5	27.1	25.6	1.4
J 金融業、保険業	100.0	68.0	3.4	64.6	32.0	29.2	2.8
K 不動産業、物品賃貸業	100.0	78.4	18.3	60.1	21.6	20.0	1.6
L 学術研究、専門・技術サービス業	100.0	70.7	18.3	52.5	29.3	27.2	2.0
M 宿泊業、飲食サービス業	100.0	78.7	9.3	69.4	21.3	20.1	1.2
N 生活関連サービス業、娯楽業	100.0	76.1	18.0	58.1	23.9	22.8	1.1
O 教育、学習支援業	100.0	65.4	5.4	60.0	34.6	33.3	1.3
P 医療、福祉	100.0	67.9	3.7	64.2	32.1	31.4	0.7
Q 複合サービス事業	100.0	70.0	0.2	69.8	30.0	29.5	0.5
R サービス業（他に分類されないもの）	100.0	75.1	11.3	63.8	24.9	23.6	1.3
S 公務（他に分類されるものを除く）	100.0	73.6	0.5	73.1	26.4	24.5	1.8
T 分類不能の産業	100.0	81.0	20.9	60.2	19.0	17.3	1.7
(再掲)							
第1次産業 (A～B)	100.0	95.1	75.2	19.9	4.9	4.7	0.2
第2次産業 (C～E)	100.0	64.3	8.7	55.6	35.7	33.6	2.1
第3次産業 (F～S)	100.0	70.8	7.8	63.0	29.2	27.7	1.5
<b>〔全国〕</b>							
総数	100.0	56.0	10.4	45.6	44.0	35.0	9.0
A 農業、林業	100.0	93.9	73.4	20.5	6.1	5.6	0.6
B 漁業	100.0	93.6	55.8	37.9	6.4	4.3	2.1
C 鉱業、採石業、砂利採取業	100.0	59.1	3.3	55.8	40.9	32.6	8.3
D 建設業	100.0	60.5	15.0	45.4	39.5	30.8	8.7
E 製造業	100.0	50.9	5.2	45.7	49.1	39.9	9.3
F 電気・ガス・熱供給・水道業	100.0	41.9	0.4	41.5	58.1	45.5	12.6
G 情報通信業	100.0	24.0	5.8	18.2	76.0	46.4	29.6
H 運輸業、郵便業	100.0	45.2	2.8	42.4	54.8	43.9	10.9
I 卸売業、小売業	100.0	57.0	9.0	48.0	43.0	34.1	8.9
J 金融業、保険業	100.0	35.8	3.2	32.6	64.2	46.8	17.4
K 不動産業、物品賃貸業	100.0	55.6	21.4	34.2	44.4	33.0	11.4
L 学術研究、専門・技術サービス業	100.0	47.8	18.0	29.8	52.2	38.0	14.2
M 宿泊業、飲食サービス業	100.0	65.4	9.0	56.4	34.6	28.2	6.4
N 生活関連サービス業、娯楽業	100.0	62.7	15.8	46.9	37.3	30.0	7.2
O 教育、学習支援業	100.0	50.4	5.2	45.2	49.6	41.2	8.4
P 医療、福祉	100.0	61.8	3.2	58.6	38.2	33.8	4.5
Q 複合サービス事業	100.0	61.6	0.4	61.2	38.4	35.3	3.1
R サービス業（他に分類されないもの）	100.0	54.1	8.3	45.7	45.9	36.5	9.5
S 公務（他に分類されるものを除く）	100.0	56.0	0.4	55.6	44.0	36.4	7.6
T 分類不能の産業	100.0	60.5	18.5	42.0	39.5	29.8	9.7
(再掲)							
第1次産業 (A～B)	100.0	93.9	72.1	21.7	6.1	5.5	0.7
第2次産業 (C～E)	100.0	53.9	8.3	45.6	46.1	37.0	9.1
第3次産業 (F～S)	100.0	54.5	7.4	47.1	45.5	36.1	9.4

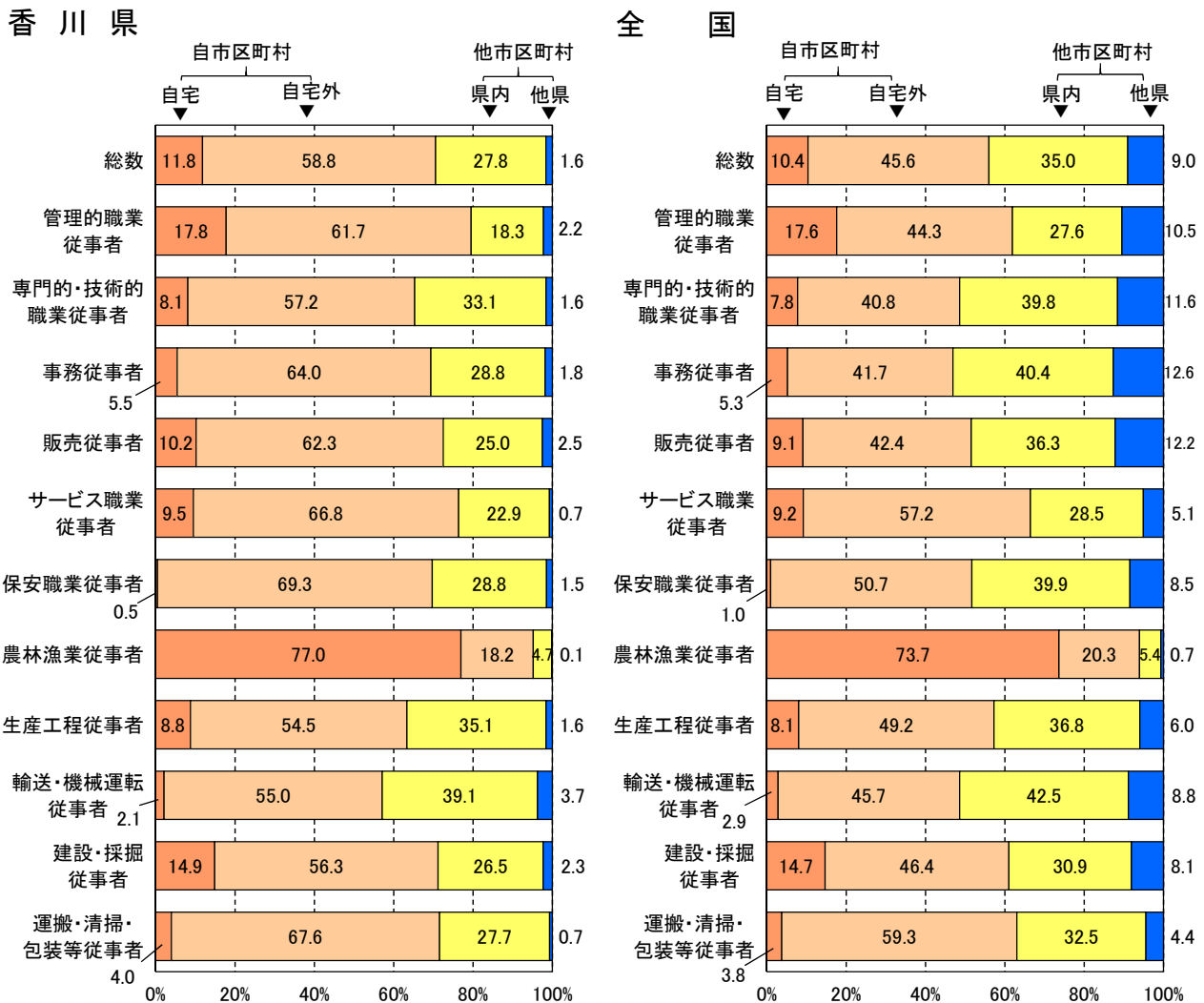
### (3) 職業（大分類）別就業者

他市区町村で従業している割合が最も高いのは、輸送・機械運転従事者

- 常住地による15歳以上就業者の従業地別割合を職業（大分類）別にみると、次のようになっている。
  - ▶ 「自宅」の割合が最も高いのは「農林漁業従事者」（77.0%）であり、次いで「管理的職業従事者」（17.8%）、「建設・採掘従事者」（14.9%）などとなっている。
  - ▶ 「自宅外の自市区町村」の割合が最も高いのは「保安職業従事者」（69.3%）であり、次いで「運搬・清掃・包装等従事者」（67.6%）、「サービス職業従事者」（66.8%）などとなっている。
  - ▶ 「県内他市区町村」の割合が最も高いのは「輸送・機械運転従事者」（39.1%）であり、次いで「生産工程従事者」（35.1%）、「専門的・技術的職業従事者」（33.1%）などとなっている。
  - ▶ 「他県」の割合が最も高いのは「輸送・機械運転従事者」（3.7%）であり、次いで「販売従事者」（2.5%）、「建設・採掘従事者」（2.3%）などとなっている。
  
- 全国平均と比べると、「農林漁業従事者」を除く全ての職業で「自宅外の自市区町村」の割合が高くなっており、全ての職業で「県内他市区町村」及び「他県」の割合が低くなっている。

[図3]

図3 常住地による 職業(大分類), 従業地別 15歳以上就業者の割合(平成27年 香川県・全国)



### 3 市町別、常住地による従業地・通学地別人口

他市区町村への通勤・通学者が多いのは、宇多津町、三木町、多度津町、綾川町

- 常住地による人口（夜間人口）のうち、「他市区町村」の割合を市町別にみると、宇多津町（38.0%）が最も高く、次いで三木町（32.6%）、多度津町（31.3%）、綾川町（30.5%）などで割合が高くなっている。
- これに対して、「他市区町村」の割合が低い市町をみると、直島町（4.3%）が最も低く、次いで高松市（6.7%）、小豆島町（8.2%）、土庄町（9.8%）などとなっている。

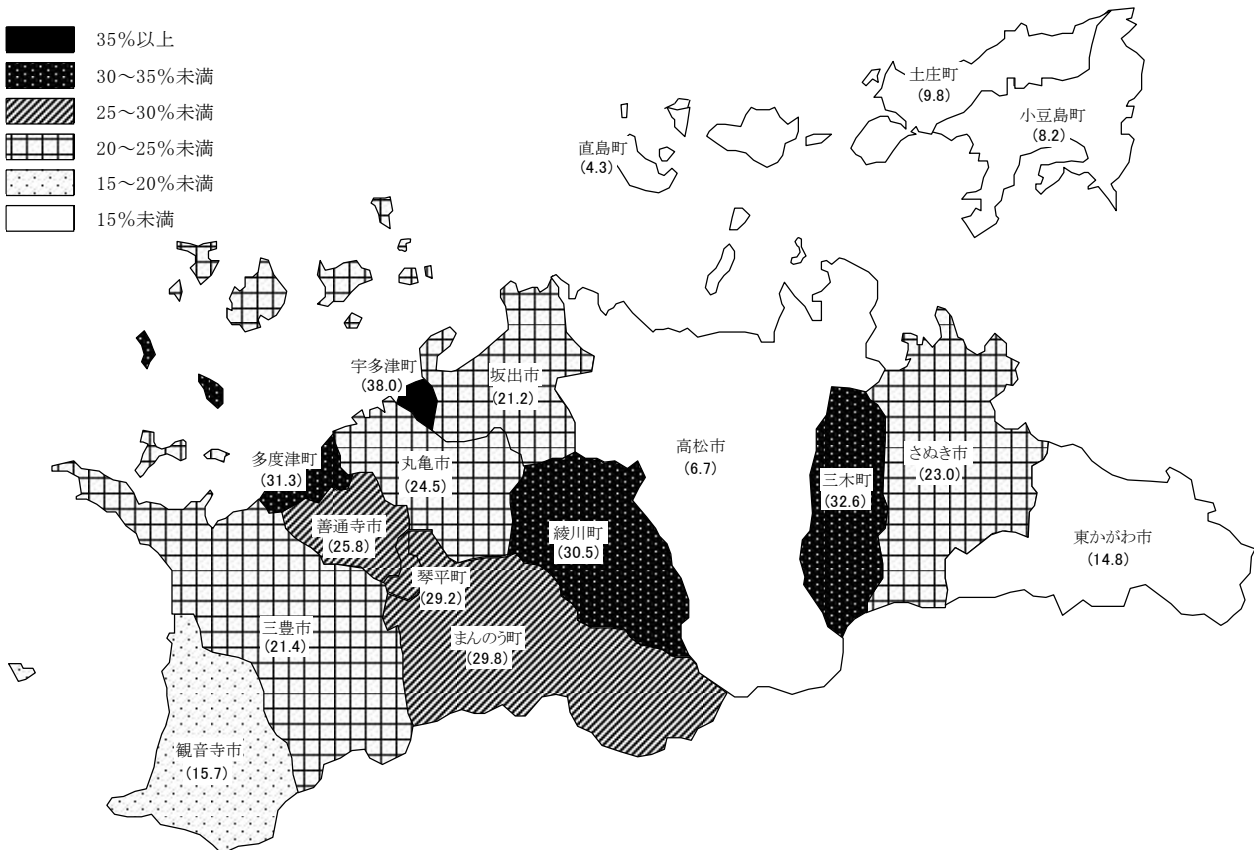
〔表4、図4〕

表4 市町別、常住地による 従業地・通学地別割合（平成22年、平成27年）

(%)

	平成22年								平成27年							
	総数 (夜間人口)	従業も通 学もしてい ない	自市区町村			他市区町村				総数 (夜間人口)	従業も通 学もしてい ない	自市区町村			他市区町村	
			自宅	自宅外	県内	他県	自宅					自宅外	県内	他県		
香川県	100.0	39.0	45.0	6.2	38.7	16.0	15.2	0.8	100.0	39.6	44.3	5.7	38.6	16.1	15.0	1.1
高松市	100.0	38.5	55.1	4.7	50.4	6.4	5.8	0.6	100.0	38.8	54.5	4.4	50.1	6.7	5.7	1.0
丸亀市	100.0	38.0	37.6	5.1	32.5	24.5	23.8	0.7	100.0	38.8	36.7	4.7	32.0	24.5	23.4	1.1
坂出市	100.0	42.2	36.5	5.6	30.9	21.2	20.3	0.9	100.0	43.1	35.7	5.3	30.4	21.2	20.1	1.1
普通寺市	100.0	40.2	34.1	6.1	27.9	25.8	25.1	0.6	100.0	40.0	34.2	5.7	28.5	25.8	24.9	0.8
観音寺市	100.0	36.1	47.6	10.4	37.2	16.3	13.9	2.4	100.0	38.5	45.8	9.0	36.8	15.7	13.2	2.5
さぬき市	100.0	40.6	36.6	7.1	29.5	22.8	22.3	0.6	100.0	40.4	36.5	6.8	29.7	23.0	22.1	1.0
東かがわ市	100.0	41.8	43.0	9.3	33.7	15.2	13.7	1.5	100.0	42.8	42.4	8.6	33.7	14.8	13.1	1.7
三豊市	100.0	38.3	40.0	9.6	30.5	21.7	20.9	0.8	100.0	39.7	38.9	8.6	30.3	21.4	20.3	1.1
土庄町	100.0	43.1	47.1	9.6	37.5	9.8	9.3	0.5	100.0	43.1	47.1	8.2	38.8	9.8	9.0	0.7
小豆島町	100.0	45.7	46.5	7.9	38.6	7.7	7.4	0.3	100.0	46.6	45.3	7.2	38.1	8.2	7.7	0.5
三木町	100.0	37.1	29.9	6.1	23.9	33.0	32.3	0.6	100.0	37.7	29.6	5.8	23.8	32.6	31.8	0.9
直島町	100.0	39.5	56.2	4.0	52.2	4.2	1.1	3.1	100.0	39.6	56.2	4.7	51.5	4.3	1.5	2.7
宇多津町	100.0	36.7	27.2	3.1	24.2	36.1	35.1	1.0	100.0	35.5	26.5	2.9	23.6	38.0	36.8	1.2
綾川町	100.0	38.2	30.5	8.1	22.5	31.3	30.7	0.5	100.0	39.6	29.9	7.4	22.5	30.5	29.7	0.8
琴平町	100.0	40.0	31.9	10.6	21.4	28.0	27.5	0.6	100.0	41.3	29.5	9.3	20.2	29.2	28.4	0.8
多度津町	100.0	41.5	30.0	5.1	24.9	28.4	28.0	0.5	100.0	40.4	28.3	4.4	23.9	31.3	30.3	0.9
まんのう町	100.0	39.6	30.7	10.8	19.9	29.7	29.2	0.5	100.0	40.8	29.4	9.5	19.9	29.8	29.1	0.7

図4 市町別、常住地による 他市区町村への通勤・通学者の割合（平成 27 年）



#### 4 市町別、従業地・通学地による常住地別人口

他市区町村からの通勤・通学者が多いのは、宇多津町、坂出市、琴平町、多度津町

- 従業地・通学地による人口（昼間人口）のうち、「常住地が他市区町村である者」の割合を市町別にみると、宇多津町(37.0%)が最も高く、次いで坂出市(30.6%)、琴平町(29.4%)、多度津町(28.5%)などで割合が高くなっている。
- これに対して低い市町をみると、小豆島町(8.0%)が最も低く、次いで土庄町(8.9%)、高松市(10.1%)、東かがわ市(12.0%)などとなっている。

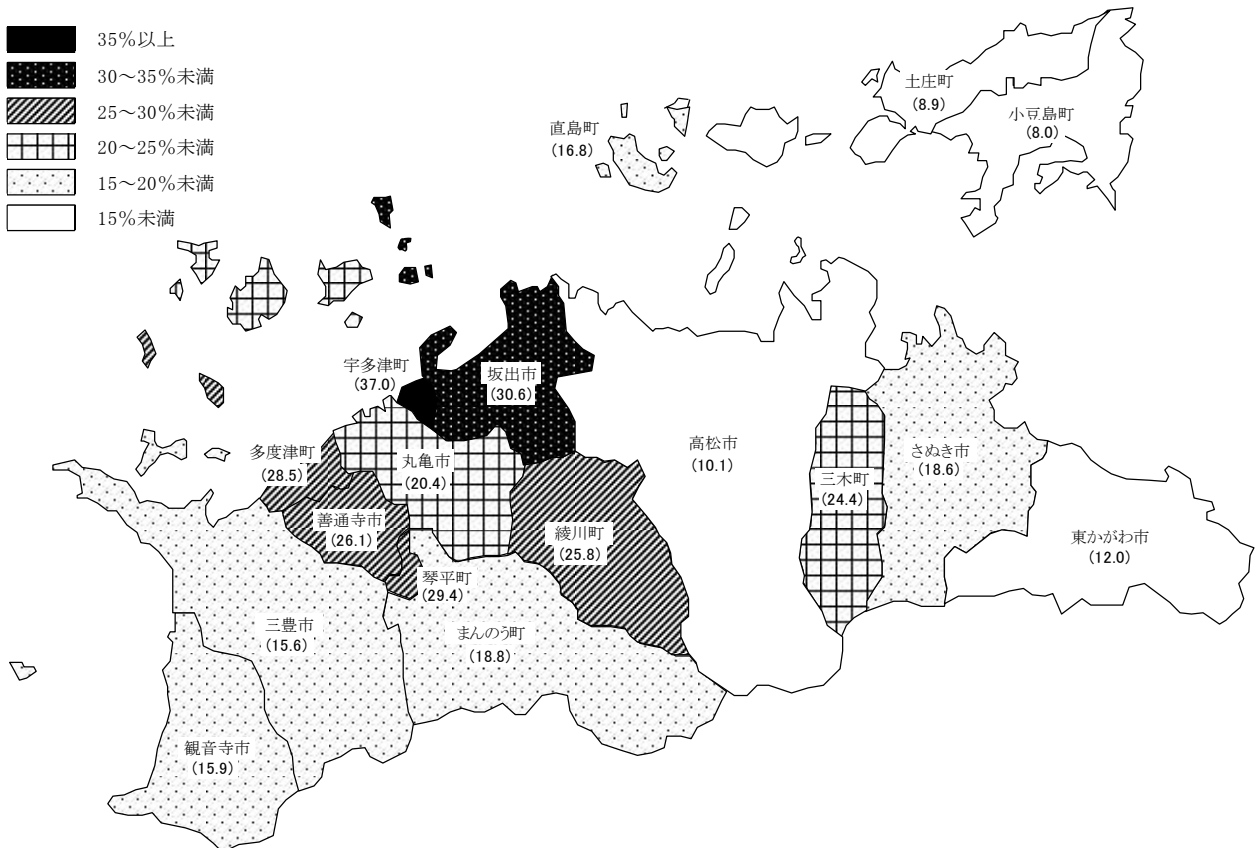
[表5、図5]

表5 市町別、従業地・通学地による 常住地別割合（平成22年，平成27年） (%)

	平成22年								平成27年							
	総数 (昼間人口)	従業も通 学もしてい ない	自市区町村			他市区町村			総数 (昼間人口)	従業も通 学もしてい ない	自市区町村			他市区町村		
			自宅	自宅外		県内	他県	自宅			自宅外		県内	他県		
香川県	100.0	39.2	45.2	6.3	39.0	15.5	14.6	1.0	100.0	39.5	44.3	5.7	38.6	16.2	14.9	1.3
高松市	100.0	37.0	52.9	4.5	48.4	10.1	9.2	0.9	100.0	37.4	52.5	4.3	48.3	10.1	8.8	1.3
丸亀市	100.0	40.3	39.9	5.4	34.5	19.8	19.2	0.6	100.0	40.9	38.7	5.0	33.8	20.4	19.5	0.9
坂出市	100.0	38.2	33.1	5.1	28.0	28.7	27.9	0.8	100.0	38.0	31.4	4.6	26.8	30.6	29.6	1.0
善通寺市	100.0	40.4	34.2	6.2	28.1	25.4	24.7	0.7	100.0	39.8	34.0	5.6	28.4	26.1	24.9	1.3
観音寺市	100.0	36.8	48.5	10.6	37.9	14.7	12.3	2.4	100.0	38.4	45.7	9.0	36.7	15.9	13.1	2.8
さぬき市	100.0	43.7	39.3	7.6	31.7	17.0	16.4	0.6	100.0	42.7	38.6	7.2	31.4	18.6	17.7	0.9
東かがわ市	100.0	44.3	45.5	9.9	35.7	10.2	8.1	2.1	100.0	44.2	43.7	8.9	34.8	12.0	9.1	2.9
三豊市	100.0	41.8	43.8	10.5	33.3	14.4	13.5	0.9	100.0	42.7	41.8	9.2	32.5	15.6	14.3	1.2
土庄町	100.0	43.8	47.9	9.7	38.1	8.3	8.0	0.4	100.0	43.6	47.5	8.3	39.2	8.9	8.5	0.4
小豆島町	100.0	45.8	46.6	7.9	38.7	7.6	7.1	0.5	100.0	46.7	45.4	7.2	38.2	8.0	7.2	0.7
三木町	100.0	42.8	34.6	7.0	27.6	22.6	22.2	0.4	100.0	42.4	33.3	6.6	26.7	24.4	23.7	0.6
直島町	100.0	36.1	51.3	3.7	47.7	12.6	1.1	11.6	100.0	34.4	48.8	4.0	44.7	16.8	1.2	15.6
宇多津町	100.0	35.3	26.2	3.0	23.3	38.5	37.7	0.8	100.0	36.1	26.9	3.0	23.9	37.0	35.8	1.2
綾川町	100.0	42.3	33.8	8.9	24.9	23.9	23.5	0.4	100.0	42.3	31.9	7.9	24.0	25.8	25.2	0.5
琴平町	100.0	39.7	31.7	10.5	21.2	28.6	28.1	0.5	100.0	41.1	29.5	9.3	20.2	29.4	28.9	0.5
多度津町	100.0	42.6	30.8	5.3	25.5	26.5	25.9	0.6	100.0	42.1	29.4	4.6	24.9	28.5	27.8	0.7
まんのう町	100.0	46.7	36.2	12.7	23.4	17.2	16.6	0.5	100.0	47.2	34.0	11.0	23.0	18.8	18.2	0.6

(注)・総数には、従業・通学市区町村「不詳・外国」及び、従業地・通学地「不詳」を含む  
・割合は、総数から従業・通学市区町村「不詳・外国」及び従業地・通学地「不詳」の数を除いたものを分母にして、算出している

図5 市町別、従業地・通学地による他市区町村からの通勤・通学者の割合(平成27年)





## 5 市町別、昼夜間人口比率

昼夜間人口比率は直島町、坂出市が高く、まんのう町、三木町で低い

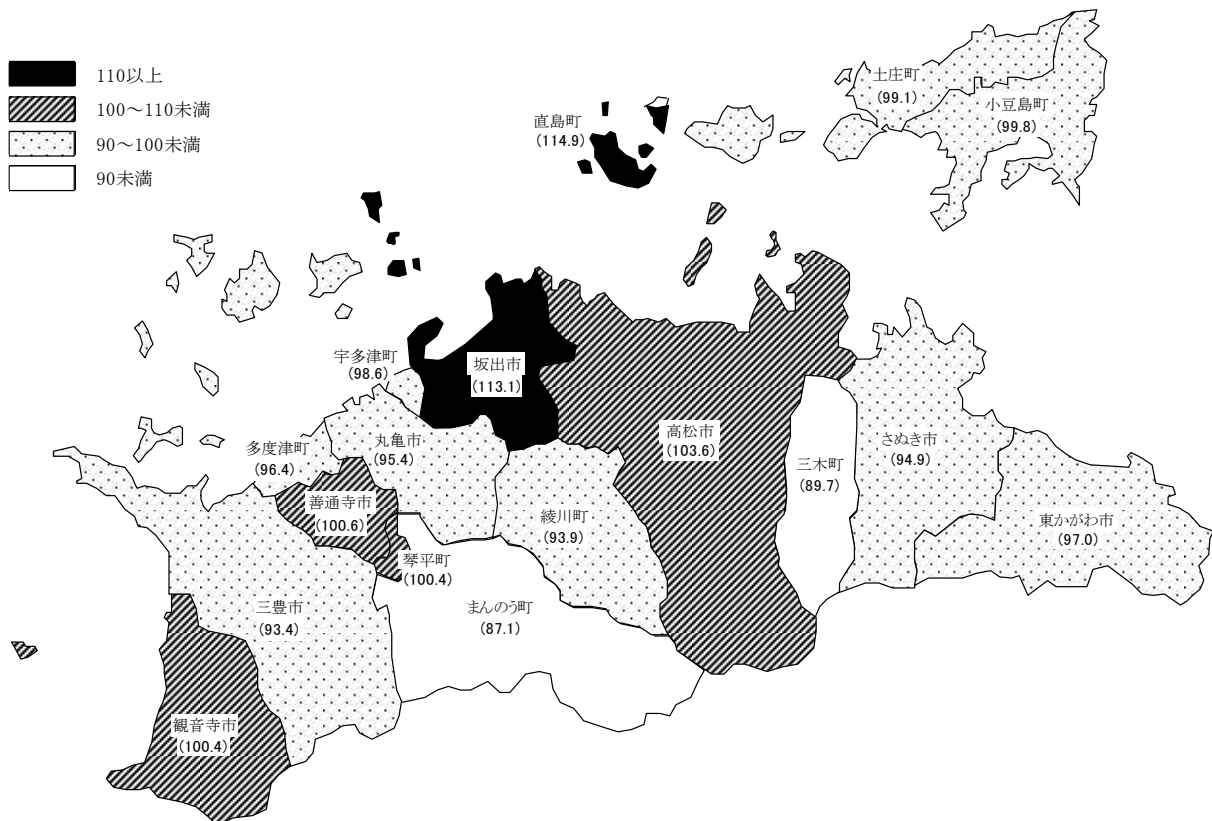
- 昼夜間人口比率(夜間人口 100 人当たりの昼間人口の割合)を市町別にみると、直島町(114.9)が最も高く、次いで坂出市(113.1)など、4市2町で100を超えている(流入超過)。一方、まんのう町(87.1)、三木町(89.7)の2町で90を下回っており、あわせて4市7町で100を下回っている(流出超過)。なお、昼夜間人口比率が100を超えている近隣の市町では昼夜間人口比率が低くなる傾向がある。
- 平成22年と比べると、直島町(+5.1ポイント)、綾川町(+2.5ポイント)などで上昇している一方、宇多津町(△5.5ポイント)、多度津町(△1.4ポイント)などで低下している。

[表6、図6]

表6 市町別、昼間人口・夜間人口及び昼夜間人口比率(平成22年、平成27年)

	昼間人口(人)		夜間人口(人)		昼夜間人口の差(人)		昼夜間人口比率		ポイント差 H22-H27
	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年	
香川県	997,863	978,511	995,842	976,263	2,021	2,248	100.2	100.2	0.0
高松市	438,504	435,901	419,429	420,748	19,075	15,153	104.5	103.6	-0.9
丸亀市	105,518	104,968	110,473	110,010	-4,955	-5,042	95.5	95.4	-0.1
坂出市	61,717	60,114	55,621	53,164	6,096	6,950	111.0	113.1	2.1
善通寺市	33,799	33,130	33,817	32,927	-18	203	99.9	100.6	0.7
観音寺市	62,204	59,626	62,690	59,409	-486	217	99.2	100.4	1.1
さぬき市	49,656	47,688	53,000	50,272	-3,344	-2,584	93.7	94.9	1.2
東かがわ市	31,996	30,115	33,625	31,031	-1,629	-916	95.2	97.0	1.9
三豊市	63,506	61,184	68,512	65,524	-5,006	-4,340	92.7	93.4	0.7
土庄町	14,904	13,872	15,123	14,002	-219	-130	98.6	99.1	0.5
小豆島町	16,164	14,838	16,152	14,862	12	-24	100.1	99.8	-0.2
三木町	25,019	24,845	28,464	27,684	-3,445	-2,839	87.9	89.7	1.8
直島町	3,653	3,608	3,325	3,139	328	469	109.9	114.9	5.1
宇多津町	19,188	18,686	18,434	18,952	754	-266	104.1	98.6	-5.5
綾川町	22,521	22,180	24,625	23,610	-2,104	-1,430	91.5	93.9	2.5
琴平町	10,111	9,227	9,967	9,186	144	41	101.4	100.4	-1.0
多度津町	22,980	22,531	23,498	23,366	-518	-835	97.8	96.4	-1.4
まんのう町	16,423	15,998	19,087	18,377	-2,664	-2,379	86.0	87.1	1.0

図6 市町別、昼夜間人口比率(平成27年)



## 6 流入人口・流出口（15歳以上人口）

高松市への流入人口は976人減少、流出口は2,852人増加

- 高松市を従業地・通学地として他市区町村から流入する15歳以上人口は40,273人（高松市を従業地・通学地とする15歳以上の者（226,334人）の18.2%）で、平成22年に比べ976人、2.4%の減少となっている。

このうち、県内の他市町からの流入を市町別でみると、さぬき市からの流入が7,342人、三木町からの流入が6,134人、丸亀市からの流入が5,171人などとなっている。

- 一方、高松市に常住し、他市町を従業地・通学地として流出する15歳以上人口は25,192人（高松市を常住地とする15歳以上就業者・通学者（211,253人）の12.2%）で、平成22年に比べ2,852人、12.8%の増加となっている。

このうち、県内の他市町への流出を市町別でみると、さぬき市への流出が4,383人、坂出市への流出が4,252人、三木町への流出が3,658人などとなっている。〔表7〕

表7 高松市の15歳以上流入・流出口(平成22年、27年)

	流入・流出口(人)		割合(%)		増減率(%)	ポイント差
	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年	H22-H27	H22-H27
高松市への流入人口 (常住地が高松市外)	41,249	40,273	100.0	100.0	-2.4	0.0
県内他市町から	37,563	35,014	91.1	86.9	-6.8	-4.1
さぬき市	7,918	7,342	19.2	18.2	-7.3	-1.0
三木町	6,608	6,134	16.0	15.2	-7.2	-0.8
丸亀市	5,325	5,171	12.9	12.8	-2.9	-0.1
綾川町	4,902	4,385	11.9	10.9	-10.5	-1.0
坂出市	4,231	4,062	10.3	10.1	-4.0	-0.2
その他市町	8,579	7,920	20.8	19.7	-7.7	-1.1
他県から	3,686	5,259	8.9	13.1	42.7	4.1
高松市からの流出口 (従業地・通学地が高松市外)	22,340	25,192	100.0	100.0	12.8	0.0
県内他市町へ	20,204	21,558	90.4	85.6	6.7	-4.9
さぬき市	4,096	4,383	18.3	17.4	7.0	-0.9
坂出市	3,695	4,252	16.5	16.9	15.1	0.3
三木町	3,553	3,658	15.9	14.5	3.0	-1.4
綾川町	2,805	2,931	12.6	11.6	4.5	-0.9
丸亀市	2,322	2,434	10.4	9.7	4.8	-0.7
その他市町	3,733	3,900	16.7	15.5	4.5	-1.2
他県へ	2,136	3,634	9.6	14.4	70.1	4.9

香川県への流入人口は3,103人増加、流出口は2,864人増加

- 香川県を従業地・通学地として他県から流入する15歳以上人口は12,117人（香川県を従業地・通学地とする15歳以上の者（499,761人）の2.5%）で、平成22年に比べ3,103人、34.4%の増加となっている。

県別では、徳島県からの流入が3,548人、愛媛県からが2,801人、岡山県からが2,453人などとなっており、平成22年と比べると、徳島県からの流入は16.0%、愛媛県からの流入は24.9%、岡山県からの流入は21.1%それぞれ増加している。

- 一方、他県を従業地・通学地として香川県から流出する人口は9,875人（香川県を常住地とする15歳以上就業者・通学者（497,519人）の2.0%）で、平成22年に比べ2,864人、40.9%の増加となっている。

県別では、愛媛県への流出が2,425人、岡山県へが2,170人、徳島県へが1,605人などとなっており、平成22年と比べると、愛媛県への流出は7.4%、岡山県への流出は24.1%、徳島県への流出は14.5%それぞれ増加している。〔表8〕

表8 香川県の15歳以上流入・流出口(平成22年、27年)

	流入・流出口(人)		割合(%)		増減率(%)	ポイント差
	平成22年	平成27年	平成22年	平成27年	H22-H27	H22-H27
香川県への流入人口 (常住地が県外)	9,014	12,117	100.0	100.0	34.4	0.0
徳島県から	3,059	3,548	33.9	29.3	16.0	-4.7
愛媛県から	2,242	2,801	24.9	23.1	24.9	-1.8
岡山県から	2,025	2,453	22.5	20.2	21.1	-2.2
高知県から	370	494	4.1	4.1	33.5	0.0
その他都道府県から	1,318	2,821	14.6	23.3	114.0	8.7
香川県からの流出口 (従業地・通学地が県外)	7,011	9,875	100.0	100.0	40.9	0.0
愛媛県へ	2,257	2,425	32.2	24.6	7.4	-7.6
岡山県へ	1,749	2,170	24.9	22.0	24.1	-3.0
徳島県へ	1,402	1,605	20.0	16.3	14.5	-3.7
高知県へ	225	403	3.2	4.1	79.1	0.9
その他都道府県へ	1,378	3,272	19.7	33.1	137.4	13.5